



正法眼蔵嗣書草案本断簡（加賀屋旧蔵本）／道元筆／紙本墨書／縦 22.3×横 61.0 cm（本紙部分）／鎌倉時代

本書は、仁治2年(1241)3月7日、道元禅師が深草(京都市伏見区)の興聖寺において撰述した草案本の一部である。この後、『正法眼蔵』「嗣書」は禅師によって推敲され、寛元元年(1243)9月24日に越前吉峰寺(福井県永平寺町)において修訂されたものも現存する(駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵『正法眼蔵』「嗣書」)。本書はもとは京都五条の加賀屋所蔵であり、正保4年(1647)5月19日に永平寺に献納されたものである。草案本は江戸時代に26葉に裁断されて有縁のものに分けられた。現在確認できるものは14点あり、本書はその中の1点である。